

第71回 日本放射線技術学会総会学術大会 印象記

浅野 恭司

Asano Kyouji

第71回日本放射線技術学会 総会学術大会 (4月16~19日開催)に参加しました。

今大会は、パシフィコ横浜の会議センター、国立大ホール、アネックスホール、展示ホールを会場に、第74回日本医学放射線学会総会、第109回日本医学物理学会学術大会、2015国際医用画像総合展 (ITEM)との同時開催です。

今年は「Be Cool and Practical」と題し、平野浩志大会長 (信州大学)の下、開催されました。このテーマには“冷静に現状と近未来を見据え、実践的に対処することがもっとも肝要”との意味が込められているとのこと。

大会前日は大陸からの寒気が日本列島を横断し、太平洋からの湿った空気とぶつかり、日本中あちこちで雹を降らせる荒天ぶりでしたが、大会が始まる16日にはすっかり晴れ渡り、大会日和となりました。

桜木町の駅を出ると、“太平洋の白鳥”と呼ばれる大型帆船、日本丸 (写真1)が出迎えてくれ、日本で2番目に高いビルのランドマークタワーからクイーンズスクエアを通り抜け、パシフィコ横浜にたどり着き、横浜の海風が出迎えてくれました。本当に天気回復してよかったと思うほど風の強い場所です。

今大会には当院から口述演題を5題提出しましたので、それを中心に紹介いたします。

- ・「X-Y面内における逐次近似応用を用いたビームハードニング補正の検討」工藤正寿
- ・「160 mm ノンヘリカルポリウムスキャンの体軸方向 CT 値均一性の検討」中島宗



写真1 日本丸 (ニッポンマル)

一期

- ・「X線自動検出技術を用いた FPD システムと γ 線の影響」大島有希
- ・「半導体 SPECT 装置における SPECT 再構成視野内の空間分解能変化について」吉田伸二郎
- ・「半導体 SPECT 装置における心臓欠損描出能の検討」浅野恭司

CT、画像工学、核医学と分野の違う研究を提示できたことを喜んでいきます (写真2)。

CTはテクノロジーの開発が活発で、日に日に新しい技術が生まれ、X線写真においても Flat Panel Detectorの時代が来た核医学では、半導体カメラに期待が高まります。今後も若い力がこれらの研究を伸ばしてくれることに期待します。

さらに、今大会では、Basic Lectureで豊橋市民病院の寺部充昭先生による「X線画像形成の基礎」を受講しました。電磁波であるX線の

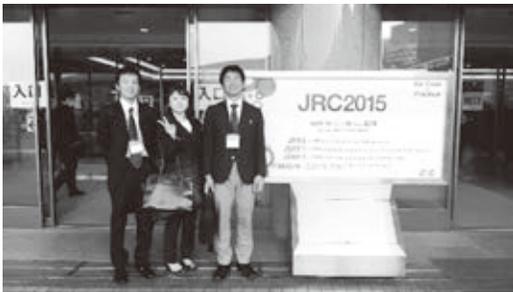


写真 2 総会会場にて

物理現象を可視光線や赤外線为例にして分かりやすく説明していただきました。いつも気にしているつもりでしたが、筆者の担当する核医学の分野でも散乱線や減弱が画像に及ぼす影響を改めて考えさせられました。また、モンテカルロシミュレーションの視覚的に現象をとらえる手法が面白いと思いました。

総会学術大会に参加すると、英語発表の演題が増えていることに感心します。横浜を世界の放射線医療にかかわる技術者や研究者の集会場にしようとする志が感じられます。今大会では全口述演題の25%に当たる115演題を英語発表で占めたようです。ゆくゆくは50%まで増やしたいと考えているようなので、国際的な学会に携わっていることに未来に拓ける技術の向上を感じました。

また、タブレット端末の普及が目立ちました。参加者の方々の手には端末があり、各々の情報収集に役立てていました。タブレット端末で大会のプログラムのチェックや、発表抄録の閲覧ができ、予稿集の内容もほとんどが見ることができるので、予稿集に付箋を付け、カバンから出してチェックするというわずらわしさから解放された感じで、とても便利に思いました。

筆者自身も演題発表に関して、発表プレゼン

テーションのチェックや、座長の先生との連絡等に極めて役に立ちました。

今大会から、電子ポスター (Cypos) の登録が幅広くなりました。口述発表の演題も Cypos 登録が必須となり、Cypos がますます便利になったと感じました。

ただ、Cypos 登録から演題スライド登録までに1か月ほど時間があるので、その間に発表内容やスライドの構成など、考え直すことができるので少し戸惑いもありました。

“いいねボタン”も面白い企画だと思いました。

日本最大という床面積2万 m^2 で柱がない展示ホールでは、国際医用画像総合展 (ITEM) が開催されていて、154社もの企業が出展していました。会場は大小様々な企業が軒を連ねてびっしり詰まっていました。CT、MRIの技術の進歩は飛躍的で、素晴らしいデザインに感心させられ、以前はX線フィルムを主力にしていた企業も Imaging Plate から Flat Panel Detector に推移して更に画像情報、情報管理のシステムに様変わりをしている様子に感銘を受けました。こういった努力をする企業によって、テクノロジーが開発されて、新しい企画に進化して世の中が変わっていくのだと思うと未来が明るい気がしました。

そんな放射線技術学会総会の開催最終日にあたる4月19日の新聞、全国紙の一面と他紙では二面に「医療被曝抑制へ基準」という記事が出ました。放射線による検査での被ばく量の基準を設けましょうというものでした。

こういう記事が出ると各施設で、少し騒ぎ立つかなと思いましたが、きっと“Be Cool and Practical”でこの問題も乗り越えられるだろうと新聞を読みました。

(日本医科大学付属病院 放射線科)